

部門・資料編

1、演習林・苗畑・蘇門林の歴史

①演習林の設置から県有林へ

明治三四年木曾山林学校創立と同時に演習林設置の必要性が起り、翌三五年福島区有林を五分五分の分収契約のもとに山林学校演習林として設定した。

契約概要は明治三五年四月より向こう七〇年間を期限とし、地上権者は地代を払わず伐採木の売り上げを折半するものであった。演習林は二団地に分かれ、一つは学校に隣接する裏山演習林であり、もう一つは福島町中畑に接する大平山演習林である。

演習林設定当時は、ほとんど雑木雑草に覆われていたが、生徒が実習で植林を繰り返して美林の造成に努めた。生徒の実習だけでは植林が困難であるため、地元区民が協力してそのかわりに薪材を提供したという記録がある。

昭和八年の記録によればヒノキ二五町歩、カラマツ一〇町歩、アカマツ七町歩、サワラ二町歩、スギ二町歩、クスギ二町歩の林分が形成され、その代表的なものは、スギ、サワラで樹高二〇メートル、胸高直径二〇センチ、ヒノキで樹高一五〜二〇メートル、胸高直径一五センチであり、毎年間伐木千本、収入百余円となっている。

昭和十八年大平山演習林のカラマツが戦時の強制伐採によって皆伐された。しかし、戦後の二五年カラマツを造林し順調に生育している。

三六年校舎改築事業に関連して、長野県林務部において演習林の買い上げが行われ、県の所有するところになった。ここにおいて六〇年続いた地元区民との分収形態の演習林経営は終止符を打ち、県有

林となりこれを本校の演習林として使用することになり、覚え書きが交付され今日に至っている。

②苗畑

苗畑は大正時代、校舎裏の運動場のそばで、寄宿舎の側にあったが、運動場拡張等のために追われて、五カ所に分散した。第一号苗圃は寄宿舎炊事場の裏、第二・第三の苗圃は校門を出て右手に並び第四苗圃は記念公園と果樹園の間を通過して約二百メートル登ったところの五カ所で、合計面積約五〇アールある。

ここから山出し苗を約四万本生産し約百円の収入をあげている。昭和八年以来アカマツを筆頭に三〇余種、二〇万本の苗木が養成されてきた。

その後も演習林植林用の苗木として苗畑実習でヒノキやアカマツを大量に生産して供給し、演習林が県林務部移管後まで続いた。現在は演習林の植林用は林務部より供給されている。

カラマツの植林が叫ばれた昭和四〇年始め頃は中部電力の協力を得て、電熱床による挿し木の発根促進での苗木増産の研究も行われた。

現在は農業基礎の学習用に、苗畑を班毎に分割して、いろいろな作物を作り研究しながら実習している。

改築により以前の苗畑が無くなったため苗畑ををあちこち借用した。しかし次第に地主に返還を求められたり、林業大学の敷地となったりして面積が縮小した。今は国道より二百メートル上の所にまとまって、小面積ではあるが一から六号に分けて運営している。

③蘇門林

昭和三八年校舍全面改築が終わった段階で、時の蘇門会長中村治郎（16回）の発案により、木曾福島町新開黒川橋詰地区の区有林と蘇門会の間に、地区四分、蘇門会六分の分収契約が成立し、昭和四一年三月五日蘇門林が誕生した。

地拵え、新植が同窓生、生徒の手によって三年ほど繰り返され、カラマツ、ヒノキの林が成立した。その面積は八ヘクタールに及んでいる。それ以後毎年林業科の生徒によって総合実習の時間に保育作業が継続され順調な生育が続いている。

2、演習林の所在地、面積、地質

演習林は裏山演習林と大平山演習林に分かれ、それぞれ七つの林班と一つの林班に分けて経営されている。

演習林が林務部に移管になった昭和三十六年の実測面積は次の通りである。

裏山演習林

所在地 木曾福島町城山五八二〇番地（大沢、仲が沢、岩が沢）

木曾福島町城山五八二二番地（姥が沢、脇沢）

第一林班 九・七二〇ヘクタール

第二林班 九・四九五ヘクタール

第三林班 八・三六四ヘクタール

第四林班 一〇・一九七ヘクタール

第五林班 八・六六〇ヘクタール

第六林班 八・三六四ヘクタール

第七林班 三・二四〇ヘクタール

小計 五八・〇四〇ヘクタール

大平山演習林

所在地 木曾福島町小平裏五八二二番地

木曾福島町小平裏五八二五〇番地

第八林班 八・二六〇ヘクタール

裏山・大平山演習林合計面積

六六・三〇〇ヘクタール

地質

裏山演習林は北北東に面し二〇〜三〇度の傾斜地で、急斜地もあり日照は良くない。標高七八〇〜一八〇メートルに及び、基岩は粘板岩と硬砂岩よりなり、土壌は礫の多い砂壤土で、一般に崩壊しやすい所が多い。

大平山演習林は東向きの斜面で日照は良く、その他の条件は裏山演習林とほとんど同じである。

3、林況と動植物

当地は暖帯系樹種の自生北限であるため、演習林の樹種は非常に多岐にわたり五二科一〇四種といわれている。

そのうち主要なものは針葉樹で、ヒノキ、スギ、カラマツ、アカマツ、モミ、ツガ等で広葉樹はクリ、コナラ、カツラ、カエデ、ケヤキ等である。マルバノキ（ベニマンサク）、ヒカゲツツジの群落が見られるのが珍しい。尾根筋はスズダケの大群落であり第一林班にはブナが混じる。林相はヒノキを主とする人工林が大部分を占め、特に四、五林班は長年にわたる実習の成果で見事な林となって残っ

ている。一部崩壊のおそれのある制限林と第一林班には広葉樹が多く残っていて若葉や紅葉の時期には変わりなく美しい。また所々にモミ、ツガ、マツの昔ながらの大径木が残存している林相が目につく。

演習林にもカモシカが出没するようになり、生徒が教室の窓越しに眺めながら勉強しているが、時々目にふれる動物には、冬に罾をかけて捕った野ウサギやリス、ムササビ、タヌキ、キツネ、テン、ノネズミ類。熊も出て幹を引き掻いた跡があった。

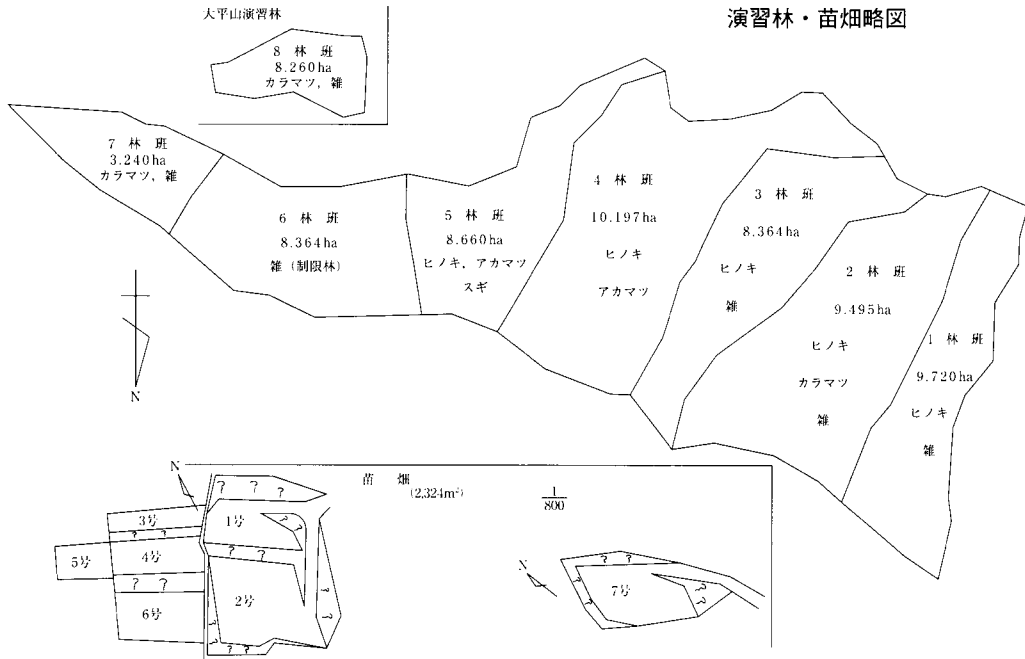
一林班のガラバにはマムシもいて実習のときによく捕っている。そのほかシマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシもよく見られる。

実習の時に耳をすましてよく聞いたさえずりや見た鳥は、ウグイス、アオゲラ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、センダイムシクイ、キジバト、キツツキ、カケス、オナガ、キジ、ヤマドリ、ウソなどである。

変わったところでは、沢にサンショウウオが見られた。

斜面が北向きだったので食用茸は少なく四林班にチチダケ、オオウゴンダケ、二林班にコウタケ、三林班の岩場にイワタケが見られるくらいであった。変わったところでは光苔が見つかったことがある。

演習林・苗畑略図



4、裏山演習林調査簿

附大平山演習林 昭和十年七月現在
第三學年生調査作製

國	郡	村	大字	林小字	面積			積		地況		林況					摘				
					林施業地	地施業地	除地	計	摘	地	摘	樹種及混交歩合	疎密	林齡	林級	林種調査別		材積		平均生長量	
																		每1ヘクタール	總		針葉樹
信濃	西筑	福島	向城	裏山	大	1.い	1.848	0.024	1.872	立木地	中	北、急斜、腐植質土、中軟適	ヒノキ	密	25	5	中標	98.00	180.65	7.226	同齡一齊林 未ダ撫育 ズ密ナルタ ハ甚大ナリ
					小	1.ろ	1.970	0.019	1.989	末立木地	下	北、急斜、北面及東面隣接シ、ノキ見、隙土、淺、乾	サツ								本校所有地トナリ シヨリノ未立木 ニシテ、ホ、ク イチゴ、ニ、ガ イ、クズ、ダン ウ、バイ最等多 クサザカラ、ニ シキ等モ認ム
					小	1.は	3.508	0.047	3.555	末立木地	上	北、急斜、北面及東面隣接シ、ノキ見、隙土、淺、乾	サツ								ヨゲンミナバリ、 キイチゴ、クロ イ、ニ、ガイ チゴ、ニ、ガ イ、チゴ等シ、 本校遠距離ノ 行キ届カズ、
					小	1.に	2.481	0.075	2.556	末立木地	除ハ石地	北、急斜、腐植質土、中軟適	サツ								天然生ホ、ノキ多シ
					小計	9.807	0.165	9.972													

國	郡	村	大字	林小字	面積			積		地況		林況					摘						
					林施業地	地施業地	除地	計	摘	地	摘	樹種及混交歩合	疎密	林齡	林級	林種調査別		材積					
																		每1ヘクタール	總	針	闊		
信濃	西筑	福島	向城	裏山	大	2.い	1.512	0.367	1.879	北急砂壤中軟適	中	立除石地	上	サハラ	密	34	12	中標準地	183.15	277.50	8.160	上長成長旺盛ナリ 樹高、12米余 木幹ク數年前開伐 ヲ施行セル形跡アリ	
					小	2.ろ	0.287	0.287	0.287	北急砂壤中軟適	中	立木地	中	サツ	粗	5	1	下標	103.00	61.00	2.01	風害林アリ 枯損木	
					小	2.は	0.601	0.002	0.603	腐植質壤土傾斜中軟適	中	立木地	上	スギ	密	36	11	上標	90.00	63.00	3.15	蔓生植物稍繁茂ス 被害木アリ北面ニ ハスギゴケガ蔓延 シヒキツガノ稚樹相 當發生スルヲ見ル	
					小	2.に	1.0337	0.075	1.1087	砂壤北急腐植質土多シ	中	立木地	中	ヒノキ	密	5-25	23	6	中				昭和七八年度ノ植 栽地ナリ 高サ約0.6m生長中
					小	2.は	0.7875	0.7875	0.7875	東北急粘壤乾	中	立木地	中	ヒノキ	中	6-5	1	中				昭和八九年度ノ植 栽地ハ高サ約0.4m クリ、ソヨゴ、コ ナラ、カヘデ類、 マンサク、タムシ ハ、リヤウブシデ 類、エゴ、ゴンゼ ツ、シロモジ等ニ シテモミ點生ス	
					小	2.へ	0.5670	0.5670	0.5670	北急壤中軟適	上	立木地	中	ヒノキ	中	5-4	1	中				生長西良シカラズ ヒノキ點生ス	
					小	2.と	0.2632	0.2632	0.2632	北急砂壤淺乾	中	立木地	中	サツ	疎	5	1	中					
					小	2.ち	0.540	0.540	0.540	北急砂壤淺乾	下	立木地	中	サツ	疎	5	1	下					
					小	2.り	1.5705	1.5705	1.5705	北急粘壤	中	立木地	中	サツ	疎	7	2	下					
					小計	7.1619	0.444	7.6059															

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積			地況		林況																						
							林	地	除	計	摘	地	摘	樹	混	疎	林	齡	林	材	積		平均	摘										
																					普通	準			施	地	地	種	歩	密	積	毎	總	潤
西	西	西	西	西	西	西	0.4335	0.1785	0.612	立木地	中	南東急、中軟、適、砂壤	ヒノキ	0.6	0.4	密	23	6	中標	124.50	54.780	1.956	毎木混浴林ニシテ人工植栽ニヨル											
濃	摩	島	城	山	澤	3	1.161	0.0090	1.170	立木地	中	南東急、斜中、軟、適、砂壤	ヒノキ	0.6	0.4	密	25	5	中標	124.50	116.53	4.661	毎木混浴林ニシテ人工植栽ニヨル 昭和9年9月ノ暴風ノ害ニ罹ル											
							2.2045	0.0095	2.214	立木地	中	南東急、中軟、適、砂壤	ヒノキ	0.6	0.4	中	22	5	中標	84.770	187.63	8.530	人工植栽ニヨル一齊林ナリ 列狀混浴林ニシテヒノキノ生長ハ良好ナルモアカマツハ稍劣ル											
							0.171		0.171	立木地	中	南東緩、中軟、適、砂壤	アカマツ	0.6	0.4	中	12	3	中															
							1.305		1.305		下	南東緩、淺、乾、粘	ヒノキ	0.6	0.4	疎	26	6	下目	58.50	76.34	2.936	昭和九年ノ風害ニ罹リ相當ノ根倒ヲ生ジ今年全部處理サレル											
							0.2160		0.2160	立木地 ナレド	中	北東緩、砂質土、中軟、適	アカマツ	0.6	0.4	中	14	3	中標	69.330	14.975	1.609	人工植栽ニ依ル											
							1.2248	0.0720	1.2968	立木地 ナレド 岩石地 崩壊地 等有リ	下	北東緩、砂壤中、軟、適	アカマツ	0.6	0.4	疎	12	3	下目	20.58	25.206	2.100	人工植栽ニ依ルモ岩石地崩壊地等多ク林況悪シ											

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積			地況		林況																						
							林	地	除	計	摘	地	摘	樹	歩	疎	林	齡	林	材	積		平均	摘										
																					普通	準			施	地	地	種	歩	密	積	毎	總	潤
							0.216	0.007	0.223	立木地	中	南西、緩粘土質、中、軟、適	アカマツ ヒノキ	0.4 0.6	密	19-22	6	中標	85.00	18.36	0.918	人工植栽ニシテ植栽間伐行ハレズ列狀混浴林ナリ												
							0.3782	0.0018	0.380	立木地	中	東面急、斜深、中軟、適、粘土質	ヒノキ	0.6	疎	7	1	中					昭和6年度植栽											
							0.5016	0.0024	0.504	立木地	中	東北、急斜、深、軟、適、腐植土	サツ	密									主ナル樹種ハククリ、カヘデソヨゴコナラクマシデ、アカシデアヲハダ											
							0.702		0.702	立木地	中	東面斜急、中軟、適、粘土質	サツ	密									樹種ハ小班ニ準ズ											
小計							8.5136	0.2802	8.7938											493	821													

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積				地況		林況											
							林業地 普通 道地	地 制限 地	除 地	計	摘 要	地 位	摘 要	樹 種 及 混 合 度	疎 歩 密 度	齡 級	材 積 調 査 立 方 メ ートル	積			平 均 生 長 量	摘 要		
																		每ヘクタール	總 計	調 潤				
濃	西筑摩郡	向島	山	小	字	班	0.323			0.323	立木地	中	砂壤中、軟、適	スギ	中	23	5	中標	331.200	126.358		5.364	生長良好	
							0.773			0.773	立木地	中	砂壤中、適、緩	ヒノキ	疎	18	4	中標	135.320	104.602		5.811	雑木多シ	
							0.316			0.316	立木地	中	砂壤中、適、急	スギ ヒノキ	0.4 0.6	密	20 18	4	中標	67.392 101.068	22.236 31.937		1.115 1.773	雑木多シ
							1.228			1.228	立木地	中	砂壤急、中、軟、乾	ヒノキ	0.8	密	25	5	中標	161.189 40.472	181.821 49.699		7.264 5.787	林相甚悪
							0.522			0.522	立木地	中	北急、砂壤土中、適	アカマツ	0.8	中	20-25	5	中標	153.963 41.333	80.368 21.586		3.653 0.980	混交林
							1.452	0.003		1.455	立木地、除地ハ林道	上	北緩、粘質土、深、軟、適	ヒノキ	0.2	密	28	6	上標	373.640	542.525		13.653	一齊林
							1.435	0.004		1.439	立木地、除地ハ林道	中	急砂壤中、軟、乾	ヒノキ	0.7	中	23	5	中標	203.973 42.533	292.70 61.033		12.706 2.654	混交林 雑木多シ
							1.003	0.011		0.894	立木地、除地ハ林道	中	緩粘土中、軟、乾	アカマツ	0.3	中	23	4	中標	203.973 42.533	292.70 61.033		12.706 2.654	混交林 雑木多シ
							0.319	0.002		0.321	立木地、除地ハ林道	中	北東急、砂、中、乾	アカマツ	疎	13	3	中標	30.300	9.680		0.740	雑木多シ	

國	郡	村	大字	大字	大字	大字	面積				地況		林況													
							林業地 普通 道地	地 制限 地	除 地	計	摘 要	地 位	摘 要	樹 種 及 混 合 度	疎 歩 密 度	齡 級	材 積 調 査 立 方 メ ートル	積			平 均 生 長 量	摘 要				
																		每ヘクタール	總 計	調 潤						
	小	本	山	字	班	字	0.393			0.393	立木地	除地ハ林道	中	北東、急、砂、中	ヒノキ	0.8	密	26	5	中標	292.200 32.300	59.148 9.147		2.274 0.590	混交林	
							1.430			0.028	1.458	立木地	除地ハ林道	上	北東、潤粘質、深	ヒノキ	0.2	密	14	3	上標	84.200	73.240		5.230	一齊林生長良好
							0.495			0.016	0.511	立木地	除地ハ林道	中	東、濕、急砂質	ヒノキ	中	17	4	中標	86.200	42.669		2.570	一齊林	
							0.215			0.004	0.219	立木地	除地ハ林道	中	北東、緩粘土、深	ヒノキ	密	21	5	中標	190.08	40.867		1.460	一齊林生長良好	
							0.180				0.180	立木地	中	北、緩、砂質、中、軟、適	ヒノキ	疎	15	3	中標	150.900	27.810		0.185	生長緩		
							1.215			0.015	1.230	立木地	除地ハ林道	中	北土、緩粘土、深、軟、適	ヒノキ マツ	0.6 0.4	密	10	2	中標	22.680	22.572		2.257	混交林
							0.417			0.022	0.439	立木地	中	北、急、砂質、淺、軟、濕	ヒノキ	0.9	密	10	2	中標	22.680	9.452		0.945	混交林	
							1.201			0.019	1.220	除地ハ林道	中	粘、壤土中、軟、適	ヒノキ	中	18	中標	129.200	157.495		8.741	モミ混生			
							小計	12.816	0.146	12.962										1967.246						

國	郡	村	大字	林小	林小	面積			地況		林					平均生長量	摘						
						林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林			材	材				
																			積	積	積		
	信濃	西筑摩	福向	向	5い	0.834		0.834	立木	上	西急、砂礫深軟、濕	スギ	中	25	5	上	毎	60.00			2.400	人工林地床ニハ	
			島	ケ	ろ	0.405		0.405	立木	中	北急、礫壤中、軟乾	ヒノキ	疎下部	30	6	中	毎	50.00			1.670	一齊林イワカミ	
			町	山	は	1.638	0.019	1.657	立木	中	西北急、斜、砂礫、軟、適	アカマツ	疎上部	13	3	中	標	30.33			3.312	一齊林	
				5に	0.248		0.001	0.249	同上	上	北急、斜、砂礫土、軟、適	ヒノキ	密	14	3	中	標	84.20			1.490	杉ノ母樹散生ス	
				5ほ	0.369		0.010	0.379	同上	上	北急、砂礫軟、適	カラマツ	密	15	3	中	標	28.50			0.498	一齊林茶通リハ生長緩中腹ハ良	
				5へ	1.350			1.350	立木	上	西北急、礫壤土中、軟、乾	ヒノキ	中	9	5	上							福島町火災ノ際ノ焼跡地ナリ
				5と	0.504			0.504	立木	中	西北急、礫壤土中、軟、乾	アカマツ	中	16	4	中	目	45.00			2.81	モミ、ツガノ老木點生、東ニ推芽栽培地アリホ、ノキ、クリ、混生ス	
				5ち	0.533			0.533	立木	中	東北急、植、壤、淺、軟、濕	ガ	ツ			中							
				5り	0.238			0.238	立木	中	北西急、砂礫、淺、軟、濕	ヒノキ	密	15	5	中	毎	40.48			1.750	下部ハ水路ニ隣ル	
				5ぬ	0.504			0.504	立木	中	西北急、礫壤、淺、軟、濕	クリ	疎	10	2	中	目	40.00	30.00	10.00	4.000	天然混交林ツガノ老木點生中部ニオカラハナ見ユ	
				5る	0.500			0.500	立木	中	西北急、砂礫質壤土、砂、淺軟、濕	ヒノキ	密			中							カヘデ類ミヅキ特ニ澤山ナル
				小計	7.263		0.030	7.293										30.00	10.00				

國	郡	村	大字	林小	林小	面積			地況		林					平均生長量	摘						
						林	地	除	計	摘	地	摘	樹	疎	林			材	材				
																			積	積	積		
	信濃	西筑摩	福向	向	6い	0.108		0.108	木立	中	東北緩斜砂礫壤、乾、南方ハ境界ス	ヒノキ	中	8	2	中							皆伐跡地ノ人工植栽、保護樹ナシ、生長状態可シ、クモギクロモン、サク、ムラサキ等ノ雜木密生ス
			町	山	ろ	0.702	0.009	0.711	木立、除地ハ林間苗圃ナリ(アカマツ)	中	北而急斜肥沃南方ハ境界ス	アカマツ	疎	22	5	中	目	52.10	37.474		1.703	人工林、東ハ灌木ト境シ南北部ハ成長稍不良ツガ等ノ大木アリ點生スル1部ニ7年生赤松ガ植栽ヲ生長不良	
				6は	2.924	0.028	2.952	立木、除地ハ推芽栽培場所ノ崩壊地ナリ	中	北而急斜礫壤深適	クリ	疎	0.6	21	5	中	標	32.40		94.73	4.484	人工林、クモギノ中ニハ風害木アルヲ見ル	
				6に	1.800			1.800	雑木密生	中	北而險礫壤淺	ガ	ツ			中							モミ、ツガノ大木及ヒノキ、サハラノ天然生點生ス
				6ほ	0.414			0.414	雑木密生	下	北險礫壤、下	ガ	ツ			下							小計ニ同一ナルモ、モミ、ツガノ大木少シ
				小計	5.943	0.037	5.985											37.474	94.737				

國	郡	村	大字	小字	林班	面積			地況		林況													
						林業地 普通地	制限地 制限地	除地	計	摘 要	地 位	地 況 要	樹種 及	混交 歩合	疎密 度	林齡	林級	材積 調査 別	材積			平均 生長 量	摘 要	
																			總					
																			每ヘクタ ル	立方メ ートル	立方メ ートル			
信濃	西筑摩郡	福島町	向山	小字	7	い	0.855		0.027	0.882		中	東北急、 砂壌、 軟	カラマツ 0.5 ザツ 0.5	5-30 18	4	中	目	61.25		50.24	2.90	雑木中ニア カマツカラ マツノ混交 アリ	
					7	ろ	1.331		0.010	1.341		中	東北急、 砂壌中軟	サクラ疎	10	2	中						御大典記念 昭和四年度 植栽	
					7	は	2.088		0.054	2.142	崩壊地ヲ 含ム	中	東北急、 砂壌中軟	カラマツ中	30	6	中							
					7	に	0.174		0.006	0.180		中	東北急、 砂壌中軟	サクラ疎	17	3	中						御大典記念 昭和五年度 植栽	
					7	ほ	0.279		0.126	0.405	崩壊地ヲ 含ム	中	東北急、 砂壌中軟	サクラ疎	9	2	中						御大典記念 昭和六年度 植栽	
					7	へ	0.278		0.126	0.404		中	東北急、 砂壌	ヒノキ 0.3 ザツ 0.8	5-35 21	5	中	目	53.23	4.00	10.50		雑木中ニヒ ノキノ群狀 混交アリ	
					小計	56	50.55		0.349	5.354										4.00	60.74			
					計	56	50.55		1.451	57.9657											3114.691	165.477		

國	郡	村	大字	小字	林班	面積			地況		林況												
						林業地 普通地	制限地 制限地	除地	計	摘 要	地 位	地 況 要	樹種 及	混交 歩合	疎密 度	林齡	林級	材積 調査 別	材積			平均 生長 量	摘 要
																			總				
																			每ヘクタ ル	立方メ ートル	立方メ ートル		
信濃	西筑摩郡	大平山	大山	小字	い	7.104		0.193	7.297	造林地ハ 崩壊地	中	東北急、 砂壌中、 適濕	カラマツ中	35	3	中	概	20.636	146.51		4.31	生長一般ニ良好ナ レドモ中央部以北 ハ稍不良 余林ニハ樹下ニ 雑木多シ麓ニ近キ 部分ニハ風ノ被害 アリ	
					ろ	.150		0.150	7.447	天然生 育地	東急砂、 中雜 適濕											雑木密生ス	
					計	7.104	0.150	0.1900	7.447										146.51				

『蘇門会報』178号（昭和10年）

5、裏山演習林樹木目録

科	種	科	種	科	種	科	種
イチイ科 イスガヤ科 マツ科	イチイ ハイイスガヤ モミ カラマツ アカマツ ヒメコマツ ツガ スギ コウヤマキ ヒノキ サワラ ネズミサシ ヤマナラシ バッコヤナギ (ヤマネコヤナギ) イスコリヤナギ オノエヤナギ オニグルミ サワグルミ ヤマハンノキ オオバヤシヤブシ アズサ(ミスメ) (ヨグソミネバリ) シラカンバ ウダイカンバ サワシバ クマシデ アカシデ イスシデ ツノハシバミ アサダ クリ ミズナラ (オオナラ) コナラ ブナ クスギ エゾエノキ	クワ科 ビヤクダン科 フサザクラ科 カツラ科 メギ科 アケビ科 モクレン科 クスノキ科 ユキノシタ科	ハルニレ オヒヨウ ケヤキ コウゾ ヤマグワ カジノキ ツクバネ フサザクラ カツラ メギ アケビ ミツバアケビ ホオノキ タムシバ マツブサ クロモジ ダンコウバイ アブラチャン シロモジ ウツギヒメ ウツギ コアシサイ タマアジサイ ヤマアジサイ ノリウツギ ツルアジサイ (ツルデマリ) バイカウツギ ウラジロウツギ イワガラミ ミヤマトサミズキ (コウヤミズキ) マルバノキ (ベニマンサク) マンサク ザイフリボク ヤマブキ ズミ	カマツカ (ウシコロシ) エドヒガン オオヤマザクラ ヤマザクラ カスミザクラ (ケヤマザクラ) チヨウジザクラ ミヤマザクラ イヌザクラ ウワミズザクラ ノイバラ モミジイチゴ ナガバモミジイチゴ ニガイチゴ クマイチゴ ナワシロイチゴ クロイチゴ クサイチゴ バライチゴ ウラジロイチゴ ナンキンナナカマド フジキ ユクノキ ヤマハギ キハギ イヌエンジュ クズ ニセアカシア フジ イヌサンショウ コクサギ キハダ ツルシキミ サンショウ ニガキ ツタウルシ ヌルデ ヤマウルシ ウリカエデ コミネカエデ ウリハダカエデ	マメ科 ミカン科 ニガキ科 ウルシ科 カエデ科	オガラバナ ヒトツバカエデ (マルバカエデ) カラコギカエデ イタヤカエデ エンコウカエデ タカオモミジ オオモミジ ヤマモミジ ヒナウチワカエデ ハウチワカエデ コハウチワカエデ チドリノキ ミツデカエデ メグスリノキ ミツバウツギ トチノキ アワブキ ミヤマホウソ アオハダ ソヨゴ ウメモドキ ツルウメモドキ オニツルウメモドキ サワダツ ニシキギ ツルマサキ ツリバナ マユミ クマヤナギ イソノキ クロツバラ クロウメモドキ ノアドウ ツタ ヤマブドウ サンカクズル シナノキ サルナシ マタタビ キブシ ウリノキ	

科	種	科	種
ウコギ科	コシアブラ ヒメウコギ ヤマウコギ タラノキ タカノツメ ハリギリ クマノミズキ ミズキ	コバノガマズミ ミヤマガマズミ オオカメノキ カンボク オトコヨウゾメ ヤブデマリ ゴマキ ナガバノコウヤボウキ ミヤコザサ ヤマカシユウ サルマメ	
ミズキ科	ヤマボウシ ハナイカダ リョウブ ネジキ	キク科 イネ科 ユリ科	
リョウブ科 ツツジ科	ツリガネツツジ トウゴクミツバツツジ ヒカゲツツジ バイカツツジ ヤマツツジ ホツツジ ウスノキ ナツハゼ アクシバ サワフタギ タンナサワフタギ オオバアサガラ エゴノキ ハクウンボク アオダモ （コバノトネリコ） ミヤマイボク アラゲアオダモ マルバアオダモ フジウツギ ムラサキシキブ クサギ		
ハイノキ科 エゴノキ科 モクセイ科	ツクバネウツギ ベニバナツクバネウツギ ヤマウゲイスカグラ スイカズラ キンギンボク ニシキウツギ ニワトコ ガマズミ		

6、農業クラブ各種大会結果

一九八〇年（昭和55年）

○全国大会（東京都）

水準測量 【優秀賞】

森口雅之 森 孝之 沢田清久
奥原茂保

一九八一年（昭和56年）

○全国大会（岩手県）

農業鑑定（林業科）

水準測量 【優秀賞】

【優秀賞】 倉本 栄
山田順二 青木 茂 浜 克樹
永瀬庄栄

一九八二年（昭和57年）

○全国大会（山口県）

農業鑑定（林業科）

一九八三年（昭和58年）

○全国大会（福岡県）

農業鑑定（林業科）

○県大会（南安曇農業）

水準測量 【最優秀賞】

【最優秀賞】 渡辺 孝
中 勝幸 井口 智 塚本 保
藤原敬一

一九八四年（昭和59年）

○全国大会（長野県）

農業鑑定（林業科）

水準測量 【優秀賞】

【最優秀賞】 中村 悟
巾 勝幸 大橋孝宏 小林敏樹
安田勇次 井口 智

○県大会（南安曇農業高校）

水準測量 【優秀賞】 大橋孝宏 小林敏樹 中村 悟

安田勇次

一九八五年(昭和60年)

○全国大会(北海道)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 西路 博

一九八六年(昭和61年)

○全国大会(奈良県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 西路 博

平板測量 【優秀賞】 狩戸知喜 蒲沼 稔 牧 慎也

池上正孝

○県大会(下伊那農業高校)

意見発表B 【最優秀賞】 小松 実

一九八七年(昭和62年)

○全国大会(福島県)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 田中義治

○県大会

意見発表B 【優秀賞】 可知光輝

意見発表C 【優秀賞】 家高千枝

水準測量 【優秀賞】 谷口直幸 田中義治 村井正仁

此尻智徳

一九八八年(昭和63年)

○全国大会(島根県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 家高千枝

○県大会(下高井農林高校)

意見発表B 【最優秀賞】 上野文紀

意見発表C 【優秀賞】 高山暁美

一九八九年(平成元年)

○全国大会(大分県)

農業鑑定(林業科) 【最優秀賞】 青木浩二

○県大会

意見発表B 【優秀賞】 遠山真奈美

意見発表C 【優秀賞】 高山暁美

平板測量 【優秀賞】 清水俊幸 末松厚志 征矢 徹

中畑 勉

一九九〇年(平成2年)

○全国大会(東京都)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 河口 晃

○県大会(上伊那農業高校)

意見発表B 【優秀賞】 古幡美由紀

一九九一年(平成3年)

○全国大会(新潟県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 尾羽林英樹

一九九二年(平成4年)

○全国大会(和歌山県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 高山明雄

○県大会(須坂園芸高校)

意見発表B 【優秀賞】 荻村実苗

意見発表C 【優秀賞】 中西保敬

一九九三年(平成5年)

○全国大会(愛知県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 宮下貴弘

○県大会(南安曇農業高校)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 中島和美 古田和夫

熊田 正 稗田和孝

意見発表A 【優秀賞】 古畑伸一

意見発表C 【優秀賞】 尾崎琴音

(木曾山林高校)

平板測量 【優秀賞】 上田岳史 古畑伸一 三沢徳彦

一九九四年(平成6年)

○全国大会(香川県)

農業鑑定(農業土木科) 【優秀賞】 原 靖

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 熊田 正

○県大会(下伊那農業高校)

意見発表B 【優秀賞】 山本 仁

一九九五年(平成7年)

○全国大会(栃木県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 圃中正法

○県大会(北佐久農業高校)

クラブ活動発表 【優秀賞】 湯川篤寛 橋渡雅志 道下哲史

意見発表B 【優秀賞】 西村まさ子

一九九六年(平成8年)

○全国大会(青森県)

農業鑑定(造園科) 【優秀賞】 丸山恵一

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 塚本公志

一九九七年(平成9年)

○全国大会(鳥取県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 松原洋平

農業鑑定(造園科) 【優秀賞】 丸山恵一

○北信越大会(福井県)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 首藤止典

○県大会(木曾山林高校)

プロジェクト発表B 【最優秀賞】 伊藤絵美 中黒あけみ

伊藤絵美 湯川晃伸

堅道裕佳 住 孝治

庄原理恵 永井秀一

○県大会(木曾山林高校)

平板測量 【優秀賞】 上田 聡 織田拓三 丸山恵一

松原 洋平

意見発表C 【優秀賞】 伊藤絵美

一九九八年(平成10年)

○全国大会(北海道)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤絵美

○県大会(上伊那農業高校)

プロジェクト発表B 【優秀賞】 湯川晃伸 住 孝治

永井秀一 堅道智昭

古畑直人 小澤由幸

大目 匠 長島洋介

意見発表B 【最優秀賞】 野口律子

意見発表C 【優秀賞】 伊藤絵美

○北信越大会

意見発表B 【優秀賞】 野口律子

一九九九年(平成11年)

○全国大会(富山県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤麻矢

農業鑑定(林業科) 【入賞】 堅道智昭
農業鑑定(造園科) 【入賞】 古畑直人

○北信越大会

意見発表C 【優秀賞】 内山ちひろ

○県大会(臼田高校)

意見発表B 【優秀賞】 山田良輔

意見発表C 【最優秀賞】 内山ちひろ

農業情報処理 【優秀賞】 金子圭介

二〇〇〇年(平成12年)

○全国大会(宮崎県)

農業鑑定(林業科) 【優秀賞】 伊藤麻矢

○県大会(更科農業高校)

意見発表A 【優秀賞】 古野秀幸

意見発表B 【優秀賞】 伊藤麻矢

意見発表C 【優秀賞】 大目 匠

7、昭和三八年の林業科実習計画表

種目	学年	1年	2年	3年	林産	林産加工	課	森	林	木	林業	経
3月	餌木の設置											
2月	果箱作成 架設	昆虫調査 餌木の設置	庭園模型作り	庭園設計	防腐剤の注入	椎茸種菌培養	トラバース測量				同上実習	
1月			庭園設計	庭園設計	同上	椎茸菌糸培養	トラバース測量	同上			同上実習	
12月	苗圃寒害予防	庭木林木の雪害 予防	材木の性情調査	材木の性情調査	同上		トランシット測 量	写真測量	橋梁設計 書調製		樹幹析解	
11月	地拵・枝打・間 伐木の選定 苗圃寒害予防	庭木の寒害予防 枝打・間伐	同上	同上	木材強弱 試験	木材の蒸溜 椎茸原木採集	トランシット測 量	平板測量	橋梁設計		伐採木の材積測 定	経営案説明書作 成
10月	霜除 種実採集 精選貯蔵	昆虫予防 同上	同上	同上		松脂採集 バルブ実験	トランシット測 量	平板測量 同上 索道実習			同上	同上
9月	日除除去 苗木病害予防	諸被害木の 手入処理 餌木設置	同上	同上		松脂採集	コンパス 測量	スタジア測量 林道設計書調製			同上	同上
8月	除草	昆虫調査風害の 予防	材木性情調査	材木性情調査	同上	木材化学実験	コンパス 測量	スタジア測量 林道測量 土木材料			林木材積 測量	同上
7月	除草・除伐 下刈・蔓切	除伐・下刈 蔓切	生垣刈込 庭の手入 材木の性情調査	材木の性情調査	林鑑作成	製炭	平板測量	水準儀測量 林道測量	砂防		同上	経営案の編成
6月	除草・追肥・日 除・苗木 病害予防	病虫害駆除 予防法	庭木の手入 林木の性情調査	庭木の手入 林木の性情調査	顕微鏡実験	製炭	平板測量	水準儀測量 林道測量			立木毎木 調査	森林調査及 調査簿作成
5月	おしば作り 挿木・林木鑑定	餌木設置 昆虫調査及び飼 育試験	接ぎ木	接ぎ木		椎茸採集 製炭原木採取	平板測量	トラバース測量			単木測定	同上
4月	植樹・播種・床 替	植樹 病虫害除去	学校附近林木の 外観的性情調査 庭木の移植	簡易測量	椎茸種埋 椎茸樽木起し		簡易測量	トラバース測量	林道設計 土木材料			演習林区画 測量

8、インテリア科生徒作品展

昭和四年（一九二九年）木工専修科設立以来、生徒作品展は、平成十三年（二〇〇〇）で五三回を数えることとなった。

その内容は、時々の生活環境によって作品も変わってきている。

昭和二〇年代においては、収納家具的なものが多く、三〇年代に入って、洋服ダンス、食器棚、整理ダンス、子供用の家具が出始めた。

昭和三八年（一九六三）木材工芸科から工芸科と科名が変更になり、女子生徒が入学するようになり、内容も少しずつ変わってきた。木工芸品だけでなく、絵画やデザイン作品、ポスターなども展示されるようになり、一段と華やかさを増してきた。

四〇年代に入って作品は洋家具が多くなり、サイドボードや飾棚、ミラーチェストなど室内空間をより有効利用すると共に、装飾的な家具も作られるようになってきた。収納家具専用からゆとりのある生活、くつろぎのある生活へと変化してきたため、製作される家具もそれと共に変わってきた。

昭和五九年（一九八四）作品製作意欲の向上を目指して、作品賞を設けることとなった。以後この賞はインテリア科生徒の大きな励みになり毎年優れた作品が発表された。

平成二年三月三日の信濃毎日新聞には、次のような記事が写真と共に掲載された。「木曾山林高校第四二回インテリア科作品展が同校で開かれた。恒例の即売も行うとあって約二〇〇人が会場を訪れ、生徒たちの力作に見入った。伝統の展示会だが経験を積んだ三年生ともなると、完成度も高く、細かい部分まで丁寧な仕上げ、一年間四〇〇時間余りもかけて製作されたものであり、訪れた人はプロ顔

負けと評価していた。」

平成一〇年代に入り女子生徒も多くなり作品にも変化を生じている。特に情報デザインコースの実習では、デザインコンクールでの入選、椅子を中心とした家具、身の周りの品々の製作へと変化してきている。

インテリア科生徒作品展入賞者

* 三年を対象に行っているので受賞者は全員三年生

昭和五九年度 (一) 内は受賞作品

金賞 田上幸夫 (火鉢)
銀賞 細沢正巳 (食器棚)
銅賞 保科 勝 (サイドボード)
努力賞 鈴木健裕 (茶棚)
村井智睦 (鏡台)

昭和六〇年度

金賞 内木 靖 (両面戸棚)
銀賞 小椋正幸 (茶ダンス)
銅賞 髪田 勉 (サイドボード)
努力賞 田上康行 (食器戸棚)
山浦卓仁 (飾棚)

昭和六一年度

金賞 高寺正浩 (飾棚)
銀賞 古坂浩一 (書棚)
銅賞 下平寿宏 (食器棚)
努力賞 小林 久 (サイドボード)

昭和六二年度
高橋智美（ベッド）

平成三年度

金賞 丸田友明（食器棚）

金賞 児野正博（書棚）

銀賞 田代勝男（食器棚）

銀賞 古根 勉（サイドボード）

高谷理恵（デザインポスター）

銅賞 原 光男（食器棚）

銅賞 原今朝男（洋服ダンス）

努力賞 狩戸よしみ（飾棚）

努力賞 児野由美（デザインポスター）

松坂鉄也（サイドボード）

努力賞 古瀬美樹（サイドボード）

上條好一（サイドボード）

努力賞 梶田昌孝（リビングボード）

昭和六三年度

平成四年度

金賞 尾崎賢二（サイドボード）

金賞 城田祐輔（サイドボード）

銀賞 奥原卓三（飾棚）

銀賞 丸山健一（茶ダンス）

銅賞 佐々木昭（サイドボード）

銅賞 田下智幸（食器棚）

努力賞 田中恵美子（和ダンス）

努力賞 高谷祐子（洋服ダンス）

中島賢治（茶ダンス）

努力賞 浅村千春（整理ダンス）

平成元年度

平成五年度

金賞 古田洋一（食器棚）

金賞 大橋康昭（茶ダンス）

銀賞 藤原宏司（食器棚）

銀賞 野口牧子（デザインポスター）

銅賞 和木裕美子（サイドボード）

銅賞 奥谷さやか（サイドボード）

努力賞 可知浩二（食器棚）

努力賞 小口文登（食器棚）

三浦利津子（整理ダンス）

努力賞 該当者なし

平成二年度

平成六年度

金賞 磯貝洋介（洋服ダンス）

金賞 該当者なし

銀賞 越 雄児（食器棚）

銀賞 関 佐智（ポスター）

銅賞 巾 勝男（食器棚）

銅賞 紙原 靖（サイドボード）

努力賞 新井健司（飾棚）

努力賞 川原文幸（テレビボード）

浦島昭彦（食器棚）

努力賞 藤原卓也（ドロアーチェスト）

平成七年度

金賞

山田 剛(テーブルセット)

銀賞

森下貴俊(ポスター)

手塚 誠(サイドボード)

銅賞

畑中由美(下駄箱)

池井裕司(飾棚)

努力賞

上村憲子(ライディングビュロー)

奨励賞

中島茂夫(デザインポスター)

杉本勇治(テーブル)

平成八年度

金賞

笠原 亮(両面食器棚)

銀賞

小瀬木利香(ポスター)

銅賞

村井佑美果(サイドボード)

新井健太郎(飾棚)

奨励賞

松葉まゆみ(飾棚)

荻村幸江(ポスター)

平成九年度

金賞

大野田武史(下駄箱)

銀賞

松原由嘉(本棚)

銅賞

斉藤暁美(収納いす)

奨励賞

和合美幸(テレビボード)

平成一〇年度

優秀賞

古畑一徳(デザインポスター)

奨励賞

野原一浩(コーナーボード)

努力賞

大槻正敏(ライディングビュロー)

平成十一年度

優秀賞

田中麗子(家具デザイン)

奨励賞

倉本真理子(デザインポスター)

努力賞

原 和司(ローボード)

森下 徹(ベッド)

平成十二年度

優秀賞

古林 晃(食器棚)

奨励賞

太田佐代(デザインポスター)

努力賞

奥原 恵(食器棚)

藤田美里(デザインポスター)

各種デザインコンクール入賞者

平成一〇年度

全国デザインコンクール

福岡県教育委員会長賞

小林早苗(三年)

平成十一年度

全国デザインコンクール

福岡県産業デザイン協会会長賞

読売新聞社賞

田中麗子(三年)

環境保護ポスター

最優秀賞(長野県)

中西千絵美(三年)

優秀賞(関東甲信越静地区)

田中麗子(三年)

9、昭和三八年の工芸科実習計画表

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	学年	種目
〃	〃	投影図法Ⅱ 家具工作Ⅰ	〃	〃	小工芸品	〃	投影図法Ⅰ 文字と図案 彫刻	ひきもの ひきもの	ひきりかた ひきもの	平面図法 文字と図案	製図の基礎	一年	製 工 芸 課 程
〃	〃	透視図法 家具工作Ⅱ	(商店・台所)	(子供・事務)	(応接・書斎)	(食事室・寝室)	(家具意匠 居間)	(椅子)	(棚類)	〃	(加工コース) 家具工作Ⅱ (椅子類)	二年	
〃	〃	透視図法	台所家具設計	(子供室家具設計 その他)	(応接家具設計 書斎)	(食事家具設計 寝室家具)	(家具意匠 居間)	(現寸図 椅子・棚)	タンス類設計	椅子・棚設計	(デザインコー ス) 家具工作Ⅱ (小椅子)	三年	
〃	(建築)	透視図法 (室内)	〃	(子供室設計)	(和風客間)	(洋風居間)	(室内意匠 和風居間)	〃	(断面図 矩計図)	(立面図)	(加工) 建築製図 (平面図 断面図)	四年	
〃	(建築)	透視図法 (室内)	(船舶室内)	車輛船舶 (車輛室内)	(子供室・台所 の設計)	(書斎設計 洋風居間)	(室内意匠 和風居間)	〃	(住宅・アパ ートの設計)	(矩計詳細 展開図)	(デザイン) 建築製図 (平面・立面 断面図)	五年	
〃	〃	〃	木工機械の基本 実習 (丸棒削ミシン 鋸木工旋盤)	〃	製図板	〃	〃	〃	本立	(組手・接手)	基本実習 (工具研磨 使用法)	一年	
〃	〃	〃	〃	〃	小戸棚 卓子	〃	〃	〃	〃	〃	(加工コース) 平机 整理箱	二年	
〃	〃	〃	〃	〃	人形ケース 壁掛・額縁 ブックエンド	〃	〃	〃	〃	〃	(デザインコー ス) 整理箱	三年	
〃	〃	〃	〃	〃	壁かけ(板金) ペン皿(プラス チック) 人形ケースガラス	〃	〃	〃	〃	〃	(加工コース) タンス・棚 椅子類	四年	
〃	〃	〃	〃	〃	居間家具及 装飾品	〃	〃	〃	〃	〃	(デザインコー ス) 応接セット及装 飾品	五年	
〃	〃	ラッカー塗装	〃	ラック塗装	〃	染料による着色	〃	顔料による着色	〃	〃	〃	一年	
原価計算	塗料・塗幕試験	〃	〃	合成樹脂塗装	カシユール塗装	エナメル塗装 水性塗料塗装	ペイント塗装	赤外線乾燥	〃	スプレー塗装	漂泊	二年	

10、卒業生の進路傾向と進路先

①卒業生の進路傾向

(1)明治・大正・昭和(戦前)の時代

創立された時の目的からみてもわかるように、地元の林業に関わる期待が大きく、産業技術改革の要望が唱えられていた。木曾谷は日本全国の中にあつて三大美林の一つといわれている天然ヒノキ林は、そのほとんどを官林が占めていた。明治の時代に「富国」の有力な一分野として「森林経営」に着目して山林学校が創立される要因になった。

創立当時から入学者は郡内はもとより県内・県外からも集まつてきており明治時代だけでも、県外から八三名、郡外からは一三八名と多く、卒業生数の半数以上を占めている。ちなみに郡内出身者は一三四名。その進路先はほとんどが各県の大・小林区署(現、森林管理局・署)であるが、県市町村関係へも進む者もいた。

大正時代になると、明治同様に大・小林区署、帝室林野局に多く就職しているが、台湾・朝鮮半島・樺太へも行く者が増えており、製紙会社・木材会社などの企業へ、さらに勉学することで、高等農林専門学校はもとより、第四高等学校・早稲田大学などへも進学する者もいた。

昭和になつてもその傾向は変わらず、民間企業へ進む者も多くなつており、満州鉄道・大林組・王子製紙・十條製紙・など一流の企業へ進んだ。

(2)昭和(戦後)・平成の時代

戦後になると国有林・県庁関係をはじめとした官庁関係への就職は、相変わらず多かつたが、昭和三〇年度から公務員試験制度が始まり、その難関を通らなければならなくなつた。

さらに木材工芸科も二二年度からスタートし、戦後の復興も進み、経済の高度成長に伴い民間企業へ進む者が次第に多くなり、木材販売・合板関係・製紙・パルプ関係・測量関係で関東・中京方面へ行く者が多くなつた。

四二年度より林業科におけるコース制の導入により、更にその傾向が強くなつた。一方木材工芸科(現インテリア科)においても三八年度よりコース制の導入と女子生徒の受け入れなどによりデザイン・インテリア室内装飾の分野へ進むものも多くなつた。また、専門学校を含む進学者も徐々に多くなり各分野(資格取得)で勉強している。

平成になつて林業科では木材関係・製紙・パルプ関係・合板関係はなくなり、一般製造関係・建設土木関係が増えている。一方インテリア科でもインテリア関係・木材・家具関係が減少傾向にあり、一般製造関係が増えている。また進学は年々増加の傾向にあり卒業生の約四割が進学する状況になつている。

11、長野県木曾山林高等学校生徒自治会々則

昭和二十七年四月十一日制定

前 文

我々木曾山林高等学校生徒は、我々自らの手による自治活動を通して我等の理想である自由と平和の学園を建設し、新しい伝統の創造を計り、以て民主社会への貢献を誓う学徒となるよう努力せんことを目的としてここに規約を制定する

第一章 名 称

第一条 本会は、長野県木曾山林高等学校生徒自治会と称する

第二章 会 員

第二条 本会は、本校生徒をもつて会員とする
 第三条 本会員は、この規約を忠実に履行する義務を負う
 第四条 本会員は、定められた会費を納入しなければならぬ
 第五条 本会員は、総て選挙権及び、被選挙権をもつ

第三章 役 員

第六条 本会は左の役員を置く
 会長 一名 副会長 二名 書記 若干名
 監事 若干名 執行委員 若干名
 評議員 若干名 校風委員 若干名

第七 条

会長・副会長は選挙により会員中より選ばれ、会長は本会を代表し且つ執行委員会を組織し、会務の一切を処理統轄する。副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する

第八 条

書記は会員中より会長の指名により選挙され、書記会を組織して諸会合の記録を司る

第九 条

監事は、各ホームルームより一名宛選出され、監事会を組織して、備品及び会計の監査にあたる

第十 条

評議員は各ホームルーム及びクラブより選出され評議会を構成する

第十一 条

執行委員は会長の指名により選出され執行委員会を構成する

第十二 条

校風委員は、各地区及び各ホームルームより選出され、校風委員会を構成する

第十三 条

役員任期は（毎年十二月一日より翌年の十一月三十一日）一ケ年とし、再選をさまたげない

第十五 条

本会は左の機関をおく
 一、生徒総会 二、評議会 三、執行委員会
 四、校風委員会

※第五 章 生徒総会

第十六条 生徒総会は本会の最高決議機関である

第十七条 議長はその都度会員の中より会長が指名し議事の運営に当る

第十八条 定期総会は、春（四月）秋（十一月）の二回とし、臨時総会は評議会が必要と認めた場合及び、会員の

第十九条 三分の一以上の要求があつた時会長が之を召集する生徒総会は、会員の三分の二以上の出席を以て成立する

第二十条 生徒総会に於ける決議は、出席会員の過半数の賛成を必要とする。賛否同数の場合は議長がそれを決定する

第二十一条 次の議事は総会の承認を得なければならない
一、予算及決算 二、本会の資産処分 三、会費
四、規約の改正 五、役員の新辞職に関する事項
六、役員指名 七、其の他の重要事項

第六章 評議会

第二十二条 評議会は、生徒総会につぐ決議機関であり、本会運営上の諸事項及び、本会に関する総ての提案を審議し、生徒総会に提出し、生徒総会の決議を必要としない諸事項を決定する

第二十三条 評議会は各ホームルーム代表一名、及び各クラブ代表一名によつて構成する

第二十四条 評議会の議長、副議長は、評議員の互選によつて定め、議長は評議会を召集し、評議会を代表して会務の処理に当る。副議長はこれを補佐し、議長不在の時はこれを代行する

第二十五条 評議会は、評議員の三分の二以上の出席をもつて成立し、議決は出席数の三分の二以上の賛成を必要とする

第二十六条 評議会は、公開とし傍聴人に意見を求めることがで

きる

第二十七条 評議会は決議事項を関係方面へ伝達せねばならない

第七章 執行委員会

第二十八条 執行委員会は、本会の執行機関で、諸種の企画を立案し、これを評議会に提出する。そして生徒総会及び評議会の決議事項を円滑に執行せしめる

第二十九条 執行委員会の委員長及び、副委員長は本会の会長及び副会長が兼任する

第三十条 執行委員会は左の局を置く
一、総務局 二、財務局 三、文化局 四、体育局
五、出版局 六、厚生局

第三十一条 執行委員会の各局には局長一名、局員若干名をおく

第三十二条 執行委員会の委員（局長）は、委員長が指名し、局員は局長が指名する

第八章 校風委員会

第三十三条 校風委員会は、生徒自治活動の刷新会員の生活向上、校風の振興を計るを目的とする

第三十四条 校風委員会は、各地区一名、各ホームルーム代表一名を以て構成する

第三十五条 校風委員会は、委員長及び副委員長各々一名を、互選により選出する。委員長は委員会を統轄し、会務一切を処理し、委員長は召集権を有する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長不在の時はその職務を代行する

第九章 ホームルーム

第三十六条

ホームルームは、本会の構成単位で本会活動に関する研究討議及び、審議執行を行う基本組織である

第四十五条

第三十七条

各ホームルームは顧問、ルーム長、副ルーム長、書記、会計、保健、その他必要な役員をおき、要望事項を評議会に提出する。但しルーム長は、評議員を兼ねるものとする

第四十六条

によって組織される。但し前項以外の改選がなされる場合は直ちに評議会の指名によって之を組織する選挙管理委員は評議会の指名により各ホームルームより一名選出する。但し立候補を希望するものは、この旨評議会に届出し辞退することができる
選挙管理委員会の委員長は委員の互選により選出し、委員会の会務処理にあたる

第十章 クラブ

第三十八条

クラブはホームルームと共に自治活動の重要な機関であり、会員はいずれかのクラブに所属し活動するものとする。又一人で二つまでは入部することができる

第四十七条

本会の経費は、生徒会費、PTA援助費、その他の収入による。会費は毎月初めに納入するものとする。但し金額については別に定める
会計年度は当年四月一日より翌年三月三十一日までとする

第三十九条

クラブは入部した部員をもって構成し部長は部員の互選によって定め、部を統轄して部活動の一切にあたる。但し部長は評議員を兼ねるものとする

第四十九条

第四十条

各クラブは関係局に属して部活動の企画とその執行に当る

第五十条

第四十一条

各クラブはその活動を円滑ならしめるためクラブの予算をもつ

会計は定期生徒総会の開催された時並に評議会が要求した場合報告しなければならない。又会員が閲覧を求めた時は提示しなければならない
会計は、毎学期一回以上監事の監査を受けなければならない。

第十一章 選挙及び選挙管理委員会

第四十二条

総選挙は毎年十一月下旬に行うものとする

第五十一条

第四十三条

選挙管理委員会は総選挙の実施に当り選挙の計画管理を行う

第十三章 解散及び解任

評議会及び委員会は次の場合解散しなければならない
一、任期が満了した時、但し新役員の選出が終り事

实的行動がなされるまではひき続いて職務を行う。中途の解散にも適要される。

第四十四条

選挙管理委員会は選挙実施一ヶ月前に評議会の指名

一、総会が不信任案を可決した時

第五十二条

一、評議会が四分の三を以て解散を決議したとき
 一、執行委員会は、執行委員長が職務を離れた時
 役員は、次の場合解任しなければならない
 一、会長、副会長は生徒総会に於て不信任案が可決
 された時及び評議会に於て四分の三以上を以て
 不信任案が可決された時

第五十三条

一、評議員及委員の選出母体が解任を決議したとき
 会長及び副会長が辞職及び解任された時はこの旨評
 議会に届出る。但し解任後も新役員を選出されるま
 では、続けて職務に当る

第五十四条

本会の活動を円滑ならしめるため本校職員を顧問に
 おく。顧問は各会合に出席して助言を与える事がで
 きる

第十四章 顧問

第十五章 附 則

第五十五条

本規約の改正は評議会に於て決議された時及び会員
 の三分の二以上の要求があった時修正案を総会に提
 出し全会員の三分の二以上の賛成を以て成立する

第五十六条

本規約は公布された日より直ちに効力を発する

第五十七条

各機関の細則は別に定める

※第四章及び第十四条が原文（「学校要覧」昭27）にないのでそのままとした。

12、戦後の本校相撲部の活躍と記録

長野県高等学校総合体育大会 相撲競技

〔団体の部〕

〔個人の部〕

昭和二十二年

優勝

山田幸雄

二十三年

優勝

山田幸雄

三十五年

優勝

山田幸雄

三十六年

優勝

山田幸雄

三十七年

優勝

桑原昭一

三十八年

優勝

桑原昭一

五〇年

優勝

村松寿一

五二年

優勝

村松寿一

五三年

優勝

小幡敏幸

五六年

二位

井領 稔

五八年

優勝

森 正樹

六〇年

二位

木戸口 光

六一年

優勝

森 博道

六二年

優勝

田代勝男

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

杉本一彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

六三年

優勝

滝沢良彦

長野県高等学校相撲新人大会

〔団体の部〕

〔個人の部〕

平成元年	優勝	杉本一彦	三位	岩井克之		
	二位	赤羽清吉	五位六年	二位	玉井慎太郎	
	三位	佐幸寛之	五七年	優勝	二位	山下紀明
二年	優勝	尾羽林英樹	優勝	三位	野田利彦	
	二位	赤羽清吉	五八年	優勝	優勝	木戸口光
	三位	田島大助		三位	細田清武	
三年	優勝	田島大助	五九年	優勝	優勝	森博道
	二位	滝沢誠		三位	和木崇	
	三位	尾羽林英樹	六〇年	二位	田代勝男	
四年	優勝	滝沢誠	六一年	優勝	優勝	滝沢良彦
	二位	植原健	六二年	優勝	優勝	滝沢良彦
	三位	宮下貴宏		二位	杉本一彦	
五年	優勝	宮下貴宏		三位	吉田薫	
	二位	伊藤裕樹	六三年	優勝	優勝	杉本一彦
	三位	伊藤裕樹		三位	佐幸寛之	
六年	三位	伊藤裕樹		優勝	優勝	田島大助
七年	優勝	滝沢雅志	平成元年	優勝	二位	赤羽清吉
	二位	三沢剛之		三位	尾羽林英樹	
八年	二位	福海勇		優勝	優勝	滝沢誠
一〇年	優勝	起元樹	二年	優勝	二位	田島大助
十一年	優勝	起元樹		三位	赤羽清吉	
				優勝	優勝	植原健
昭和五三年	二位	平林正	三年	優勝	二位	滝沢誠
五四年	優勝	井領稔		優勝	優勝	宮下貴宏
五五年	優勝	井領稔	四年	優勝	二位	古畑伸一
					三位	伊藤裕樹